

## 研究協力のお願ひ

昭和大学病院および昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へご連絡ください。

1. 課題名	特発性血小板減少性紫斑病の免疫学的機序に関する免疫組織化学的検討		
2. 研究責任者	所属	職名	氏名
	医学部 臨床病理診断学講座	准教授	塩沢 英輔
3. 研究の概要・計画	<p>研究背景：特発性血小板減少性紫斑病は免疫学的機序により、血小板破壊亢進 と血小板産生障害をきたす後天的な疾患である。抗血小板抗体に起因する自己免疫疾患と考えられている。有病者数は約 2 万人、年間発症率は約 2.16/10 万人と推計される。その病態は① 自己抗体、② 骨髄における血小板産生障害、③ 細胞免疫の異常 などが報告されている、特に細胞免疫の異常について B 細胞、T 細胞および抗原提示細胞に関連した様々な異常が ITP 発症に関与することがわかってきた。細胞性免疫の関与について、末梢血・骨髄検体のフローサイトメトリ、免疫組織化学染色を用いた検討では一定した見解が得られていない。今回、ITP と考えられた症例の骨髄で免疫組織化学染色を行い、骨髄変化について検討し、ITP における細胞免疫の関与について研究を行う。CD3、CD4、CD8、CD20、CD25、CD68、CD163 などの免疫染色を行い、陽性細胞を計測し、その平均値を統計学的に比較する。</p> <p>調査対象期間： 2005 年 1 月 1 日～ 2016 年 12 月 31 日</p> <p>調査対象情報： 昭和大学病院および藤が丘病院の血液内科および小児科を受診し、診断のために骨髄病理検体が臨床病理診断科に提出され、ITP と診断された者</p> <p>調査項目：</p> <p>①病理検体（病理組織ガラス標本、病理組織ホルマリン固定パラフィン包埋ブロック、病理組織凍結標本、病理組織ホルマリン固定標本、細胞診ガラス標本、細胞診液状検体、捺印細胞診検体など）</p> <p>②病理診断に付随する資料（病理検査申込書、病理検査報告書、細胞診検査報告書、病理 解剖申込書、病理解剖報告書、病理解剖プロトコル（所見記載用紙）、検体肉眼画像、検体組織画像など）</p> <p>③診療録情報 患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴）、臨床経過、治療法、治療効果、転帰等。</p>		
4. 研究実施期間	2017 年 1 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日		

5. 問い合わせ先

所属：医学部 臨床病理診断学講座                      職名：准教授                      氏名：塩沢 英輔  
住所：東京都品川区旗の台 1-5-8 昭和大学 1 号館  
電話番号：03-3784-8122 (医局)

なお、個人情報の保護のため、診療情報はすべて個人を識別できる情報（氏名、住所、生年月日、電話番号など）を削除し独自の記号を付して取り扱い、研究成果を学会や論文で発表する際も個人情報を出すことはありません。